

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和3年6月1日  
(前公表年月日:令和3年3月9日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
KCS北九州 情報専門学校	昭和57年1月18日	佐藤 一之	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2-4-1 (電話) 093-531-9131																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 電子開発学園九州	昭和57年1月18日	松尾 泰	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野二丁目4番1号 (電話) 093-531-9131																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	工業専門課程	システムエンジニア科	平成7年文部科学大臣 告示	-																			
学科の目的	当学科は、企業が求める実践的かつ専門的な知識・スキルを有する高度ICT人材の育成を目的として、情報システムの設計・開発を行うための基礎力からより高度な知識・スキルまで、企業等との連携により専門的かつ実践的な演習・実習を通して学習する。																						
認定年月日	平成26年 3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3	年間 昼間	3210時間	1590時間	270時間	1350時間	0時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
120人	145人	0人	4人	0人	4人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 [評価点][評価][合否] 100～90 秀 合格 89～80 優 合格 79～70 良 合格 69～60 可 合格 59以下 不可 不合格																			
長期休み	■夏 季:7月31日～8月31日 ■冬 季:12月18日～1月6日 ■春 季:2月19日～3月13日		卒業・進級 条件	・当該年次の所定の科目が認定され、かつ、当該年次の規定出席日数を満たしていること。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 スクールカウンセラーによる面談、放課後等の授業フォロー、 家庭訪問など		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員会  ■サークル活動: 有																			
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) IT・ソフトウェア・情報処理  ■就職指導内容 保護者対象就職説明会、業界セミナー、リクルートスタイルセ ミナー、校内での会社説明会、個別カウンセリング  ■卒業生数 28 人 ■就職希望者数 26 人 ■就職者数 26 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 93 %  ■その他  (令和 2 年度卒業生に関する 令和3年4月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年4月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>基本情報技術者試験</td><td>③</td><td>28人</td><td>12人</td></tr><tr><td>応用情報技術者試験</td><td>③</td><td>12人</td><td>5人</td></tr><tr><td>情報処理安全確保 支援士試験</td><td>③</td><td>5人</td><td>2人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	28人	12人	応用情報技術者試験	③	12人	5人	情報処理安全確保 支援士試験	③	5人	2人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
基本情報技術者試験	③	28人	12人																				
応用情報技術者試験	③	12人	5人																				
情報処理安全確保 支援士試験	③	5人	2人																				
中途退学 の現状	■中途退学者 5 名 令和2年4月1日時点において、在学者124名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者119名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、社会的不適応など  ■中退防止・中退者支援のための取組 ・スクールカウンセラーの活用、リメディアル教育等の授業フォローアップ、ハラスメント相談窓口、日本学生支援機構奨学金等		■中退率 4 %																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度 ・高校学習奨励制度 ・KCS公募奨学生制度 ・同窓子弟制度 入学初年度学費から減免、返済不要、4つの奨学金は重複支給、初年度学費を最高額とする ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://www.kcsk.ac.jp/">http://www.kcsk.ac.jp/</a>																						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

当校では、教育課程の編成を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、カリキュラムを編成する体系図、授業科目の設定を行っている。学校の教育理念である「IT人材育成に関する国策の推進役を担うとともに、IT企業が求める実践的なIT人材を育成することにより、情報化社会の進展に寄与する」をもとに、IT業界の最新動向を調査・研究するとともに、国策や企業ニーズに対応するため、委員会への有識者・企業の委員参加を求め、意見の収集・反映を行っていく。また、委員会を毎年度設置することにより、前年度に実施したカリキュラムの問題点・課題等を把握し、改善のうえで翌年度のカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

カリキュラム検討委員会では、以下の事項を審議する。

- 1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
- 2) 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- 3) 教材の確保、開発に関すること。

委員会の審議結果を基に、教務部長が中心となってカリキュラムの見直しを行い、翌年度のカリキュラムに反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 一之	KCS北九州情報専門学校 校長		
小嶋 晋也	KCS北九州情報専門学校 教務部長		
小野 寛明	KCS北九州情報専門学校 学科長		
庄司 裕一	北九州情報サービス産業協会 副会長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	①
矢野 宏之	リンクソフトウェア株式会社 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	③

※委員の種別

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

委員会は毎年度設置し、毎年1月、3月に実施。

(開催日時)

第1回 令和3年1月14日 16:00～17:30

第2回 令和3年3月18日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ①AI教育の導入に伴う科目の追加、および実施時期の変更が主な変更点である。
- ②文章表現力を養成するために科目内容を充実強化する。
- ③プレゼンテーション力、コミュニケーション能力、提案力などを強化するため科目の内容を改善する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際にシステム開発を業務としている企業と連携し、授業の実施・評価を企業により行うことで、実践的な知識とスキルの修得が可能となる。また業界の最新情報や実際の事例の解説などを行うことで、将来的に就職する業界についての学生の興味を喚起させ意欲を上昇させる。

これらの内容を盛り込んだ協定書・契約書を企業等と締結し、実習・演習を行い、システム開発における実践的かつ専門的な能力を育成する。

## (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業の技術者が参画して、教材作成・選定、科目の実施方法、評価方法の設計を行う。

実際の演習・実習は、企業からの講師派遣により実施し、学生へ直接指導する。

演習・実習終了時には、科目設計時に設定した評価方法を踏まえ、企業側講師と学校側講師が連携して学生の評価を行う。

## (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実践システム開発演習	システム開発の上流工程(要件定義から基本設計まで)を体験する。	(株)エスシーシー

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

規程に基づき年間の研修計画を立てて、次の方針で教員を外部機関の研修に参加させる。

・専攻分野(システム開発分野)に関しては、学園を含む「eDCグループ(学園、株式会社エスシーシー、宇宙技術開発株式会社、北海道情報技術研究所)」合同のPINE-NET企業内教育講座を受講させることにより、システム開発業務に必要な知識(最新技術、業界動向等)、技術及び技能を修得・向上させる。

・授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上については、学園が独自に企画した研修(企業等有識者が講師)又は外部の必要な研修を教職員に受講させる。

### (2) 研修等の実績(令和2年度)

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「PDCAサイクル実践講座」(連携企業等:株式会社アイ・イーシー)

期間:令和2年8月27日(木) 対象:全教員

内容:PDCAサイクルを活用したソフトウェア作成業務の改善と組織的成果の向上について学習する

研修名「ブロックチェーンの基礎と業務への応用」(連携企業等:ビジネス・ブレイクスルー大学)

期間:令和3年1月18日(月)～19日(火) 対象:全教員

内容:ビットコインなどの暗号通貨に利用されているブロックチェーン技術の基礎と、業務への応用について学習する。

研修名「VC#によるアプリケーション開発方法」(連携企業等:有限会社メディアプラネット)

期間:令和3年2月17日(水) 対象:全教員

内容:Visual Studio開発環境の導入からGUIアプリケーションの作成について学習する。

研修名「フィンテック」(連携企業等:株式会社アイ・イーシー)

期間:令和3年3月11日(木)～12日(金) 対象:全教員

内容:フィンテックのサービスや仕組みについて理解し、金融システム構築等での利用法について学習する。

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「アサーティブ・コミュニケーション研修」（連携企業等：株式会社エスシーシー）

期間：令和2年9月28日(月)～29日(火)、12月23日(水)～24日(木) 対象：中堅教員

内容：相手を大切に、自分を大切にすること、良好な人間関係構築のための基本行動を学習する。

研修名「ビジネスパーソン・アドバンス研修」（連携企業等：株式会社ジェック）

期間：令和2年11月24日(火)～25日(水) 対象：中堅教員

内容：仕事に対する当事者意識を引き上げ、周囲に働きかける手法を学び、成果を出せる人材を育成する方法を学習する。

研修名「ファシリテーション講座」（連携企業等：株式会社アイ・イーシー）

期間：令和3年1月20日(水) 対象：全教員

内容：ファシリテーションの効果を理解し、必要なスキルを把握することで、学生指導に活用する。

研修名「在宅勤務に求められる成果の出し方、見せ方研修」（連携企業等：株式会社インソース）

期間：令和3年1月27日(水)～28日(木) 対象：全教員

内容：コロナ禍以降のニューノーマルの時代に求められる在宅勤務での働き方、成果の出し方を学習する。

研修名「SDGsの趣旨と効果の把握、活用事例とアプローチ方法の習得」（連携企業等：HRコンサルティング株式会社）

期間：令和3年2月18日(木)～19日(金) 対象：全教員

内容：SDGsの概要から実践例について理解し、目標達成のための活動について学習する。

## (3) 研修等の計画(令和3年度)

### ①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「開発技術eラーニング」（連携企業等：株式会社シェアウィズ）

期間：令和3年7月～令和4年3月 対象：全教員

内容：プログラミング、セキュリティ及びネットワーク構築技術を学習する

研修名「クラウド開発技術研修」（連携企業等：株式会社エスシーシー）

期間：令和3年度下期 対象：全教員

内容：クラウド開発の手法を学習し、実際に構築する

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「レジリエンス研修」（連携企業等：株式会社エスシーシー）

期間：令和3年7月、9月 対象：若手教員

内容：レジリエンス力（「困難を乗り越える力」と「目標に希望を持つ力」）を学習し、学生指導に活用する

研修名「アサーティブ・コミュニケーション研修」（連携企業等：株式会社エスシーシー）

期間：令和3年9月、令和4年1月 対象：中堅教員

内容：相手を大切に、自分を大切にすること、良好な人間関係構築のための基本行動を学習する

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校関係者として卒業生、その他、企業および学識経験者から構成される委員が参画した学校関係者評価委員会を設置して、自己評価をもとに、教育理念と目的に沿った人材育成がなされ、かつ、健全な学校運営(学生募集～教育～就職)が行われているか評価し、評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等にかし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念、目的、育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する制度は整備されているか</li> <li>・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・教育活動に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>

(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
<p>※(10)及び(11)については任意記載。</p>	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

「卒業生の情報を活用すべきである」との意見を受け、卒業生の情報収集のためアンケートを作成し、複数の企業へアンケート配布の依頼を行うことを計画、実施する。」

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
庄司 裕一	北九州情報サービス産業振興協会 副会長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日	有識者
有光 清志	リンクソフトウェア株式会社 取締役会長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日	企業委員
矢野 宏之	リンクソフトウェア株式会社 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日	企業委員
蔵田 浩和	株式会社 YE DIGITAL 部長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日	卒業生
國盛 比菜	株式会社ラック 社員	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日	卒業生
大浦 憲昭	東筑紫学園高等学校 課長	令和3年4月1日 ～令和4年3月31日	高校関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 毎年11月中旬

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

URL:<https://dl.multidevice-disc.com/dl/16614-9bb5f8d8a9de4ab16c748e5f49bf6ec3>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学園に対して連携を行う企業、関係者に対し、当学園に対する深い理解を得てもらうことで連携を円滑にすることができ、それにより連携を進め、活動の充実や教育内容の向上を図る必要がある。

そのため、学園は連携する企業に対し、教育目標や計画などの方針をはじめ、教育対象となる生徒・カリキュラム、教育環境や経営情報などの情報を公開し、もって企業との相互理解を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要(校長名・所在地・連絡先・沿革) 学校の教育理念・特色
(2) 各学科等の教育	定員数、カリキュラム、卒業・進級要件、成績評価の基準 資格取得実績、主な就職先・就職率
(3) 教職員	教職員数、組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	演習・実習への企業との連携方針、就職支援等への取組支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育環境、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援体制、スクールカウンセラー
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金
(8) 学校の財務	資金収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

<http://www.kcsk.ac.jp/johokoukai>

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ITの職業と情報倫理	情報処理分野の職業を紹介するとともに、個人情報の扱いや著作権法、人権などインターネットを利用する上で必要となる情報倫理について学習する	1前	30		○			○		○		
○			基礎理論	情報処理技術者に必要な情報、制御、通信などの基礎理論を学習する	1前	30		○			○		○		
○			ハードウェア	コンピュータを利用する際に必要となるハードウェアの基礎知識を学習する	1前	30		○			○		○		
○			ソフトウェア	コンピュータを利用する際に必要となるソフトウェアの基礎知識を学習する	1前	30		○			○		○		
○			データ構造とプログラミング	データ構造の考え方や基本的な仕組みを学習する	1前	30		○			○		○		
○			アルゴリズム	アルゴリズムの基礎から実業務で利用される各種技法まで学習する。また、プログラムで扱うデータ構造を学習する	1前	90		△	○		○		○		
○			表計算	情報処理技術者試験に出題される表計算の問題をExcelを使用した演習と机上演習を通して学習する	1前	60		○		△	○		○		
○			システム開発の基礎	システム開発の手順及び各工程の作業内容を学習する。また、ソフトウェア開発の管理方法についても学習する	1前	30		○			○		○		
○			ネットワークとセキュリティ	ネットワーク及び、情報セキュリティの概念、しくみ、構成要素について学習する	1前	30		○			○		○		
○			データベースの基礎	リレーショナルデータベースの概念やデータの関連性、データベースの利用方法について学習する	1前	30		○			○		○		
○			ITストラテジとマネジメント	企業会計や経営工学等の経営に関する基本技術を学習すると共に情報戦略やセキュリティの考え方を学習する	1前	30		○			○		○		
○			特別講座 1	各種検定試験の受験対策を行なう	1前	300		○			○		○		



授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			行事	入学式、リクレーション、学園祭等の行事	1通	30				○	○		○		
○			HTMLとCSS	Webアプリケーション構築で必要となる基礎知識としてHTML、CSS、JavaScriptついて機能、使用法を学習する。	1後	30		△		○	○		○		
○			Java	Javaの概要を理解するとともに、基本アルゴリズムをJavaで作成し、プログラミング技術の向上を図る	1後	120		△		○	○		○		
○			システム設計	システム開発の手順と工程ごとの作業について、演習を通じて学習する	1後	60			○		○		○		
○			ヒューマンスキル	グループ演習を通して、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力(=社会人基礎力)を養う。	1後	30		△	○		○		○		
○			文章表現	文章読解力や作文作成に関わる能力を養成する	1後	30		○	△		○		○		
	○		Python	プログラミング言語Pythonについて、その基礎文法、プログラミング手法を習得する	1後	60		○	△		○		○		
		○	SEA/J基礎	情報セキュリティの考え方と技術を具体的に学習する。	1後	60		○			○		○		
○			Linux	Linuxを通してOSの機能であるユーザ管理、ファイル管理、ネットワーク管理などを学習する	2前	30				○	○		○		
○			Java	Javaの概要を理解するとともに、基本アルゴリズムをJavaで作成し、プログラミング技術の向上を図る	2前	60		△		○	○		○		
○			オブジェクト指向プログラミング1	オブジェクト指向の概念をもとに、Javaによる実装方法を学習する	2前	60		△		○	○		○		

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			データベース実習	データベースサーバに対しSQL文を発行し結果を確認するマシン実習を行う 必要な結果が得られるSQL文が作成できる能力を習得する	2前	30		△		○	○		○		
○			セキュリティ応用	情報セキュリティの考え方と技術を具体的に学習する	2前	30		○			○		○		
	○		ネットワーク応用	ネットワーク技術において実務上共通として必要な知識・技術を学習し、CompTIA Network+の資格取得のための基礎知識を修得する	2前	60		○	△	△	○		○		
○			特別講座2	各種検定試験の受験対策を行う	2前	330		○			○		○		
○			JavaScript	JavaScriptの基礎から、動的Webアプリケーションを開発するために必要な知識までを実習を通して習得する	2前	30		△			○	○		○	
○			PHP	サーバーサイドスクリプト言語PHPの文法とWebアプリケーションの基礎知識を学習する	2前	30		△			○	○		○	
○			Web総合実習	PHP及びデータベース実習で学習した内容を発展させ、データベースと連携するWebアプリケーションを作成する	2前	30					○	○		○	
○			就職対策2	就職活動の手順、書類の書き方、面接方法などを学習するとともに、社会人としてのマナーと一般常識を身につける	2通	60		○			○			○	
○			行事	リクレーション等の行事	2通	30					○	○		○	
○			AIの活用と開発手法	AIの基礎知識を身につける	2後	30					○	○		○	
○			オブジェクト指向プログラミング2	オブジェクト指向プログラミング1で学んだ技術を活用し、実践的なJavaプログラミングを習得する	2後	60		△			○	○		○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アプリケーション開発技術	オブジェクト指向の技術を用いてアプリケーションの開発・設計手法を学習する	2後	60		△	○		○		○		
○			Androidアプリケーション開発	Android端末の利用方法から、実際のアプリケーション開発までプログラミング方法を学習する	2後	90		○	△	△	○		○		
○			ビジネスマナーと文書技法	ビジネスマナーやビジネス文書、論文の書き方を学習する。また、eメールによる意思伝達の方法について学習する	2後	30		○			○		○		
○			統計学	AIにおいて重要なデータの関連性を見つけるために必要となる知識である統計学をExcel実習を通して学習する	2後	30		○		△	○		○		
	○		Python	プログラミング言語Pythonについて、その基礎文法、プログラミング手法を習得する	2後	60		△			○	○		○	
○			就職対策3	就職活動の手順、筆記試験、面接試験の方法などを学習するとともに、社会人としてのマナーを身に付ける。また、企業説明会等に参加し、企業の情報収集を行う。	3通	60		△			○	○		○	
○			特別講座3	各種検定試験の受験対策を行う	3前	150		○			○			○	
○			企画と提案	提案書を作成する工程を通して企画書提案の方法やグループ討議、プレゼンテーションの技術力を高める。	3前	30		○	△		○			○	
○			行事	リクレーション、学園祭、卒業式等の行事	3通	30					○	○		○	
○			Webアプリケーション構築1	タブレットとJSPの仕組みからDBの連携までを学習する。開発環境には、統合ソフトウェア開発環境であるEclipseを利用する	3前	90		△			○	○		○	
○			Webアプリケーション構築2	Webアプリケーション構築1で学習した内容を前提に簡易なショッピングサイトをグループで制作する。作成した作品は発表会形式で評価する	3前	90		△			○	○		○	
○			AIプログラミング	プログラミング言語Pythonについて、その基礎文法、プログラミング手法を習得する	3前	60		△			○	○		○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 システムエンジニア科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			実践システム開発演習	企業講師による最新の上流工程の設計演習を行う。プロジェクトによる演習で、打ち合わせ、議事録、設計、レビューなどの開発現場での一連の流れを演習する。	3前	30			○		○		○		○
○			プロジェクトマネジメント	プロジェクトの開始から終結までの流れを理解するとともに、各工程の品質管理が必要となる用語等を学習する。	3後	30			○		○		○		
○			C / S システム構築	CentOS(Linux)を使用した、ネットワークサーバの構築と運用を学習する	3後	30			△		○	○	○		
○			テストと移行・導入	ソフトウェア開発における品質管理の技法を理解するとともにシステムのテスト・導入・移行について具体的に学習する。	3後	30			○	△		○	○		
○			オブジェクト指向・分析設計	オブジェクト指向によるシステム開発を実践形式で学習する。	3後	60			○	△		○	○		
	○		卒業研究	研究課題を企画・制作し、プレゼンテーションを行う	3後	360			△		○	○	○		
	○		総合研究	仕様書をもとにプログラミング作成、その動作テストを行い、プログラミング技術とデバッグの力を身につける	3後	360			△		○	○	○		
合計			53 科目		3210		単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
すべての必修科目（選択必修含む）で可以上を修めること。 学科・コースで定められた科目を履修すること。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	20週